

神の国の奥義(18)

=人となられた神③=

御言葉:ヨハネ2:1-12

- ① カナにおける三日目の徴(1節):カナは「必要のある場」を意味するヘブル語から。三日目は1週間続く結婚式の三日目とも解される。
- ② 婚礼は最も人間的な礼儀の場にして神の御心の中心(エペソ5:31;黙示録21:10)。
- ③ ぶどう酒が尽きる(3節):私たちの生活、特に結婚において何か尽きる。
- ④ マリアがその必要をイエスに告げる(3節)→私たちの必要を主に申し上げる時のコツ
- ⑤ イエスの回答(4節):ご自身の主権の主張;メシアであることの顕現;必要を満たす時とあり方は主に属することの主張→私たちが主ではなく、主が主であることの確認
- ⑥ マリアの応答(5節):イエスの主権と能力を認め、それに服する姿勢(cf.ルカ1:38;2:19)
- ⑦ 6つの水瓶(6節):目的は清め(=ユダヤの宗教);「6」の意味=6日目に造られた人
- ⑧ イエスの指示に答えること(7-8節)→水がワインに変わる(9節)
- ⑨ 花婿への言葉(10節):花婿は褒められたが、彼はどう感じたであろう→自分ではないのだが・・・?(=これが主の御業に対する私たちの応答であり、主の栄光の証明)
- ⑩ 最初の徴の意義:人間生活の中心結婚における必要に答えるイエス=死と復活の原理

■暗証聖句

- 2:1 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。
- 2:3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。
- 2:4 イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」
- 2:5 しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。
- 2:7 イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。
- 2:8 イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。
- 2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。